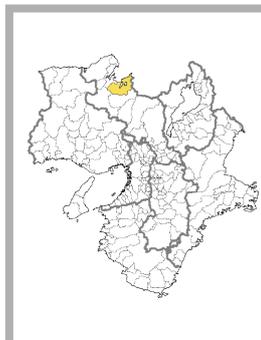


舞鶴市(京都府): 自主運行バス

地域住民自らによる運行を決断した自主運行バス

人口	91,733 人	モード	コミュニティ バス
面積	342.15 km ²	法令	道路運送法 (旧)第 80 条
人口 密度	268.10 人/km ²	運営 主体	各地区の 協議会



■ 取組の背景

地域と交通の状況

- ・ 市内には JR 舞鶴線、小浜線、北近畿タンゴ鉄道 (KTR) 宮津線といった鉄道網、舞鶴若狭自動車道と京都縦貫自動車道といった高速道路、小樽港へのフェリー航路などがあり、近畿北部の中核都市として、交通の要衝となっている。市街地は舞鶴湾に沿って形成され、東西 2 つの市街地 (田辺城の城下町として栄えてきた西地区と、海軍鎮守府の軍港として栄えてきた東地区) が広がっている複眼都市である。
- ・ 市の人口は減少傾向が続いており、少子高齢化も進んでいたため、モータリゼーションの進展なども重なってバス路線・湾内定期航路は大部分が赤字であった。事業者からは路線・航路の撤退について申し出があり、各地域において、通学・通院等の生活の足の確保が課題となった。

【交通の要衝】【人口減少】

活用メニュー(制度・協議会等)

- ・ 運行にあたっては、地域ごとの自治会において別途、協議会が設立された。組織主体は、会長・副会長・顧問・会計・理事(数名)・監事からなる。西大浦、青井校区、杉山・登尾、多門院の各協議会については、地方自治法第 260 条の 2 第 1 項に規定された「地縁による団体」としての法人格を取得している。(岡田上、池内、岡田中バス運行協議会には、法人格が無い)

【自治体独自協議会】

■ 実現したサービス

サービス内容

- ・ 各地区では、概ね、2~4 便/日の運行を行っている。運行ルートやダイヤの決定は協議会が行っているが、学校生徒の通学時間帯や、通院者の便利な時間帯に合わせた運行となっている(杉山・登尾地区に関しては、全予約制の運行となっている)。運賃は対距離制を採用している。
- ・ 運行前には、各協議会において、自主運行バスの必要性和負担等についての議論が行われた。その結果、負担に相当するだけの必要性は無いと判断された一部地域においては、廃止路線の代替となる公共交通機関が確保されていない。

【ダイヤの工夫】【ルートの工夫】

技術

- ・ 池内バス運行協議会の自主運行バスでは、平成 18 年 1 月より、従来の軽油に替えて、環境に優しいバイオディーゼル燃料 (BDF) を導入した。

【低環境負荷車両】

■ 効果と負担

効果

【利用者数の増加】

- ・ 利用者は増加傾向にあり、現在、年間約 7～8 万人の利用客がある。

負担

【市町村負担】【都道府県負担】

- ・ 市から自主運行バス協議会に対する補助金は欠損補助のみであり、協議会全体に対する市の補助金負担額は、7 協議会で年間約 1 千万円となっている。
- ・ 自主運行の欠損補助に対して、京都府から 2 分の 1 が補助されている。

■ プロセスと調整

協議会の設置

【プロセス:体制構築】

- ・ 事業者の路線撤退を受けて、各地域では自治会を中心とする協議会が設置され、地域に自主運行バスが必要かどうかについての検討が行われた。その結果、事業者撤退後に代替となる交通手段が運行されなくなった地域もある。地域に本当に必要な運行であるかを地域自身で考えてもらうという方針をとっている。

担当者の事務協議の場の設置

【プロセス:フォローアップ】

- ・ 平成 17 年度からは「舞鶴市自主運行バス連絡会議」を設置し、年に 1 回、各協議会の代表者と市の担当者が意見交換を行っている。

運転講習の実施

【プロセス:フォローアップ】

- ・ 市では、舞鶴警察署および舞鶴交通安全協会との協力のもと、定期的に各協議会に対して運転講習を実施している。

■ 創意工夫・知見・教訓

顧問会計士の依頼

【創意工夫:運営の工夫】

- ・ 各協議会の会計について、会計士に一括で依頼することにより、負担の軽減およびコストの削減に努めている。

ユニバーサルデザイン化の推進

【創意工夫:サービスの工夫】

- ・ 地域の方々のニーズを聞く中で、池内バス協議会が、シニアカーを 2 台収容できるリフト付車両を導入した。

地域による運転資金の拠出

【創意工夫:運営の工夫】

- ・ バスの運行に支障を来たすことのないよう、各協議会が独自で運転資金を調達した。

■ 連絡先、参考 URL 等

連絡先：舞鶴市役所 企画管理部 企画政策室 企画調整課 電話 0773-66-1042

参考 URL：舞鶴市 HP 地域の皆さんの手による自主運行バスのページ

http://www.city.maizuru.kyoto.jp/cgi-bin/odb-get.exe?WIT_template=AC020000&WIT_oid=icityv2::Contents::3155

■ 資料編

表. 自主運行バスの利用者数の推移

年度	利用者 (千人)	補助 路線数	補助金 (千円)		
			府	市	計
13年度	51	3	1,660	2,064	3,724
14年度	39	3	2,141	2,360	4,501
15年度	44	3	2,307	2,556	4,863
16年度	44	3	1,861	1,915	3,776
17年度	73	6	2,841	4,060	6,901
18年度	83	7	4,491	4,864	9,355

出典：舞鶴市資料

表. 自主運行バスの概要

名 称	開始年月	主なルート	便数	キロ程
岡田上バス	昭和48年11月	地頭～八戸地	平日2便	23.6
池内バス	平成5年10月	岸谷～西駅(日赤)	平日4往復	22.4
岡田中バス	平成6年10月	上漆原～岡田由里	平日3便	16.5
西大浦バス	平成16年10月	瀬崎～東駅	平日4往復	20
青井校区バス	平成16年10月	白杉～西駅	平日4往復	10.4
杉山・登尾バス	平成17年8月	杉山～東駅	平日4往復	13.7
多門院バス	平成18年1月	黒部(多門院)～東駅	平日4往復	7.4

出典：舞鶴市資料

■ 資料編

表. 自主運行バスの車両

名 称	車 両	購入年
岡田上バス	あけぼの号 29 人乗	平成 18 年更新
池内バス	かじか号 26 人乗 電動車用リフト付きバイオディーゼル使用	平成 12 年更新
岡田中バス	あかいわ号 29 人乗	平成 16 年更新
西大浦バス	中型 47 人乗	平成 16 年新規
青井校区バス	しじょのうら号 28 人乗 電動車用リフト付き	平成 16 年新規
杉山・登尾バス	スマイル号 10 人乗 ワゴン車	平成 17 年新規
多門院バス	小型 29 人乗	平成 17 年新規

出典：舞鶴市資料